

Be Fine!

株主の皆様とシスメックスをつなぐコミュニケーション誌

シスメックス 挑戦の軌跡②

価値創造への挑戦 …… 5ページ



ピラミッドとスフィンクス (エジプト)

国内・海外ともに 概ね堅調に推移し、 増収・増益を達成 しました。



代表取締役会長兼社長 CEO

伊 次 恒

いえず ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年に代表取締役社長、2013年に現職に就任。【趣味】読書、スポーツ観戦【信条】「意あらば通ず」

- ポイント 1 OGT社の子会社化や試薬売上の伸長などにより増収を達成
- ポイント 2 四半期利益*は、営業利益の伸長や税負担率の低下などにより増益

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループの2019年3月期第1四半期の業績は、OGT社の子会社化やヘマトロジー分野*、血液凝固検査分野を中心とした試薬売上の伸長などにより、増収を達成しました。また、試薬売上の増加に加え、税負担率の低下などもあり、営業利益・四半期利益ともに増益となりました。売上高は前年同期比6.9%増、営業利益は同11.3%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は同14.6%増となりました。なお、前年同期の為替レートを適用した場合、売上高は前年同期比4.7%増、営業利益は同11.6%増となります。

国内は、血液凝固検査分野、免疫検査分野、ライフサイエンス分野を中心に伸長し、増収となりました。海外は、ヘマトロジー分野などで機器の設置台数の増加に伴い試薬の売上が伸長したことに加え、ライフサイエンス事業が好調に推移し、増収となりました。これらの結果、当社グループの海外売

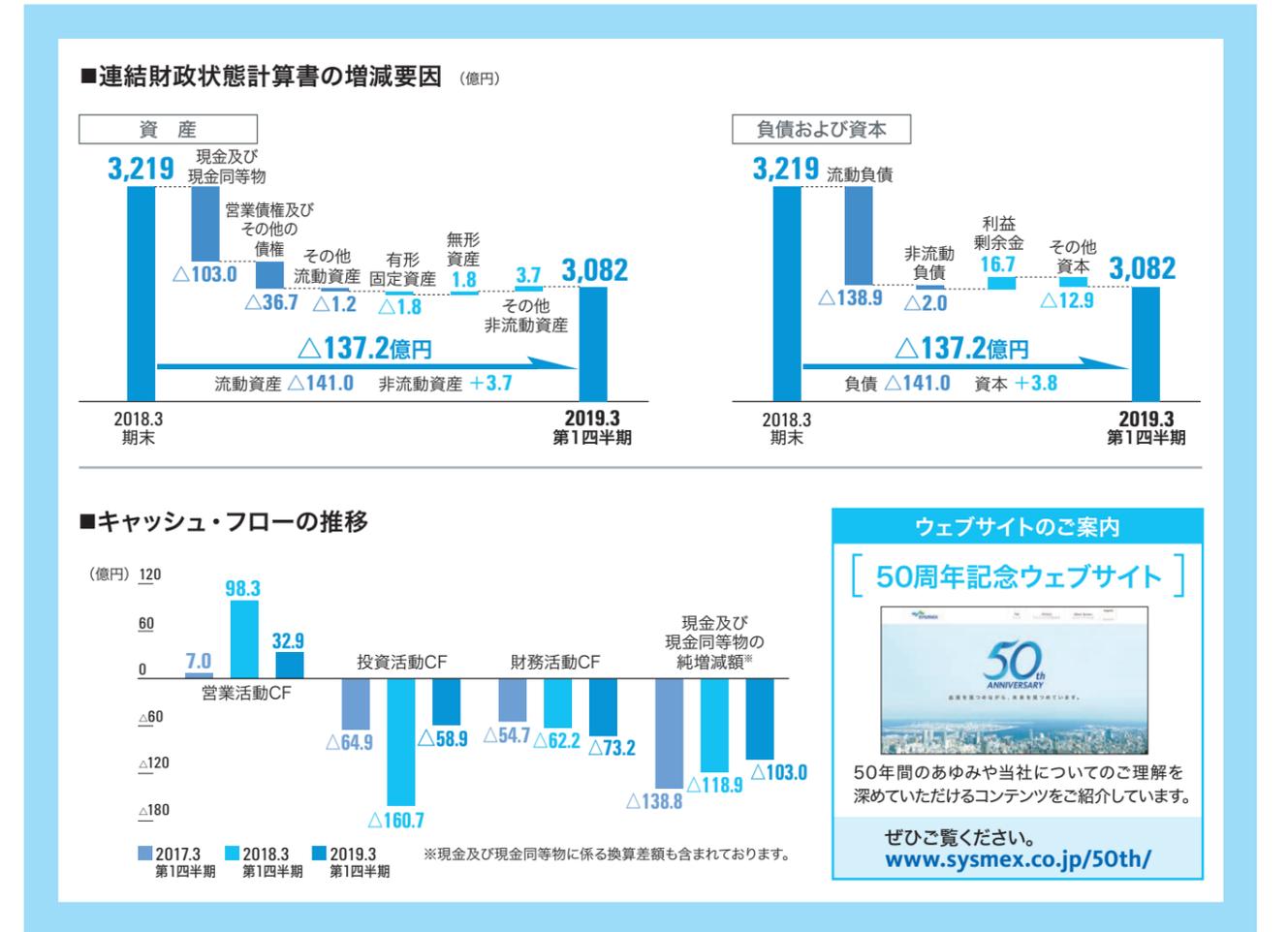
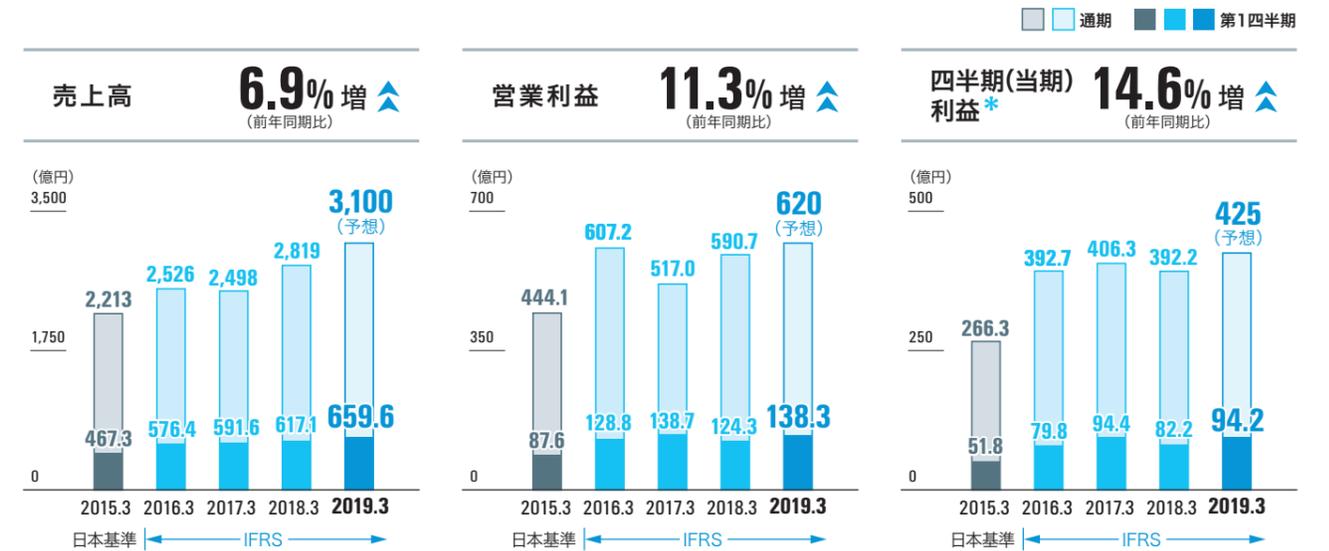
上高比率は85.5%となりました。

なお、2018年5月に公表した2019年3月期通期の連結業績見通しに変更はありません。*

当社は、今後市場の成長が期待されるエジプトにおいて現地法人を設立し、直接販売・サービスを開始しました。主力のヘマトロジー分野に加え、尿検査分野、血液凝固検査分野、ライフサイエンス分野、ならびに三大感染症(HIV/AIDS、結核、マラリア)に関わる製品・サービスの提供を開始するとともに、販売・サービス体制を強化し、顧客満足度のさらなる向上とビジネス拡大を目指します(詳細は、4ページのグローバルレポートをご参照)。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

※業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。



ウェブサイトのご案内

50周年記念ウェブサイト

50年間のあゆみや当社についてのご理解を深めていただけるコンテンツをご紹介します。

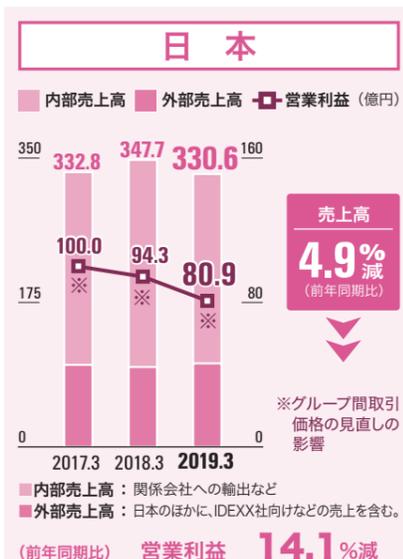
ぜひご覧ください。
www.sysmex.co.jp/50th/

利益配分(配当)に関する考え方について
当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

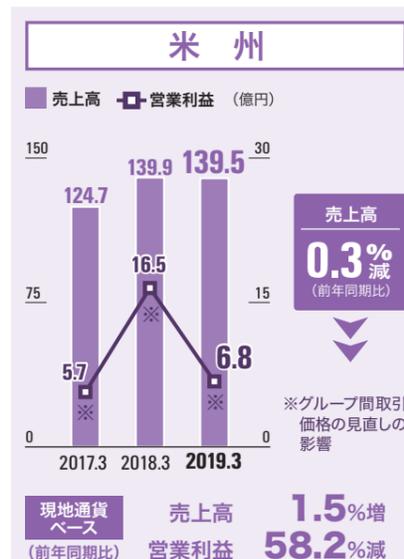
所在地別セグメント

(為替レート) (円)

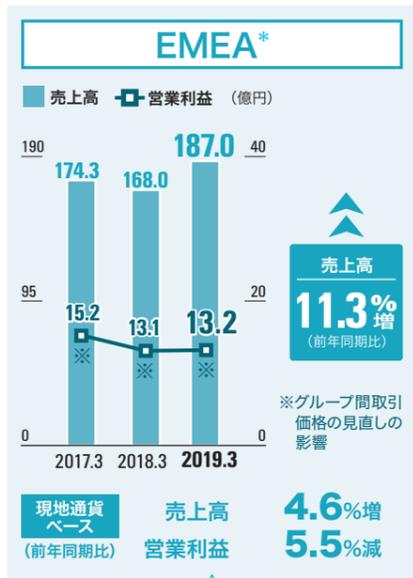
	2017年 3月期 第1四半期	2018年 3月期 第1四半期	2019年 3月期 第1四半期
1USDドル	108.1	111.1	109.1
1ユーロ	122.0	122.2	130.1
1中国元	16.5	16.2	17.1



- 国内売上が伸長するも、ピオメリュー社との合併解消や海外関係会社への売上減少により、減収
- グループ間取引価格の見直しの影響はあるも、海外関係会社への売上減少により減益



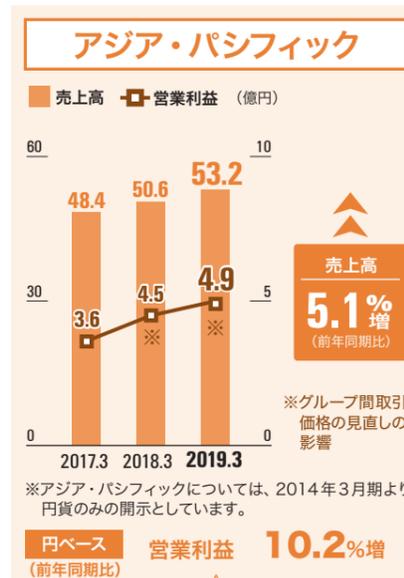
- 北米でヘマトロジー分野*の試薬などの売上が伸長するも、中南米の売上などが減少し、横ばい
- グループ間取引価格の見直しの影響や販売管理費の増加が増収効果を上回り、減益



- ヘマトロジー分野における試薬売上の伸長や、OGT社の連結子会社化の影響により増収
- 販売管理費が増加するも、グループ間取引価格の見直しや為替の影響などにより、営業利益は微増



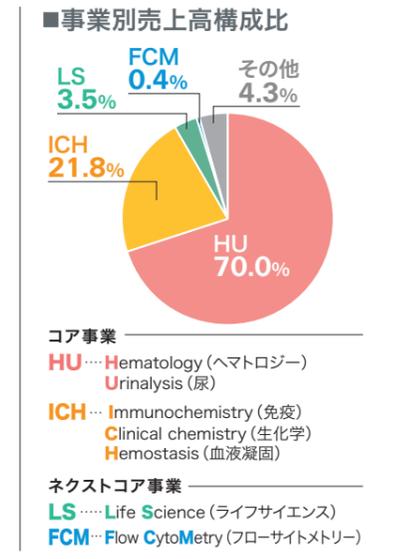
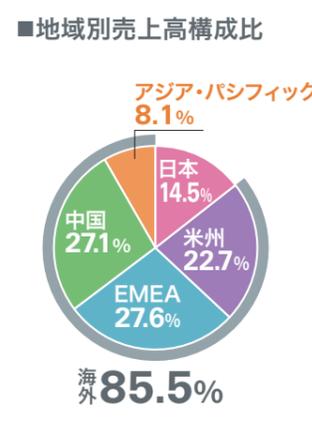
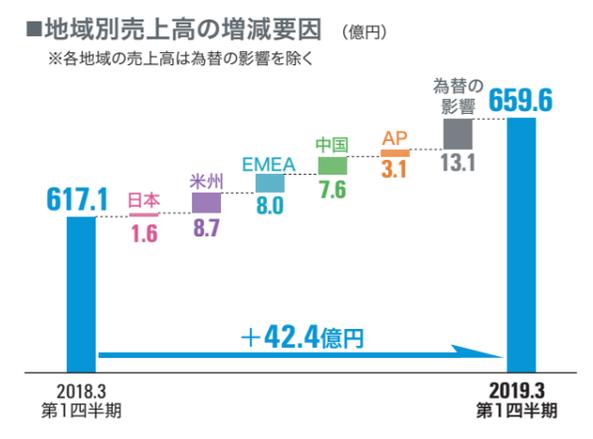
- 試薬売上の伸長に加え、直接サービスへの移行に伴う代理店向け試薬の値上げもあり増収
- グループ間取引価格の見直しの影響はあるも、試薬売上の伸長や為替の影響により増益



- 前年同期の南アジアでの大型案件獲得の影響はあるも、台湾での大型案件獲得などにより増収
- グループ間取引価格の見直しや販売管理費の増加の影響はあるも、試薬売上の伸長により増益

(注) 日本からモンゴルなどへの直接販売は、日本の外部売上高に含む。

地域別・事業別セグメント



グローバルレポート

エジプトに現地法人を設立し、直接販売・サービスを開始

エジプトでは近年、経済成長や人口の増加に伴い医療インフラの整備が進められており、ヘルスケア市場のさらなる拡大が見込まれるとともに、高度な検査・医療サービスへの需要が高まっています。

シスメックスは、アフリカ地域の中でも高い市場成長が期待されるエジプトにおいて事業基盤をさらに強化するため、2018年4月、新たに現地法人を設立しました。これまではドバイにある現地法人(シスメックスミドルイースト)のもと、現地代理店を通じて販売・サービスを行っていましたが、現地法人の設立を機に、直接販売・サービス体制へと移行します。

今後は、ヘマトロジー分野*を中心とする既存の製品ポートフォリオを拡充するとともに、尿検査分野や血液凝固検査分野、ライフサイエンス分野、ならびに三大感染症(HIV/AIDS、結核、マラリア)に関わる製品・サービスの提供を開始します。さらに、お客様との直接のコミュニケーションを通じて顧客満足度のさらなる向上とビジネス拡大を目指します。

シスメックス エジプトの従業員

アフリカで3つ目の拠点だね

エジプトでの今後の成長を見込んで体制を強化しているのよ

価値創造への挑戦

2018年に創立50周年を迎えた当社の歴史をご紹介します。第2回となる今回は、「計数結果をお売りする」だけでなく、お客様の課題解決のため、新たな価値創造に挑戦した搬送システム製品の開発から販売に至るまでの歴史をご紹介します。

1980~

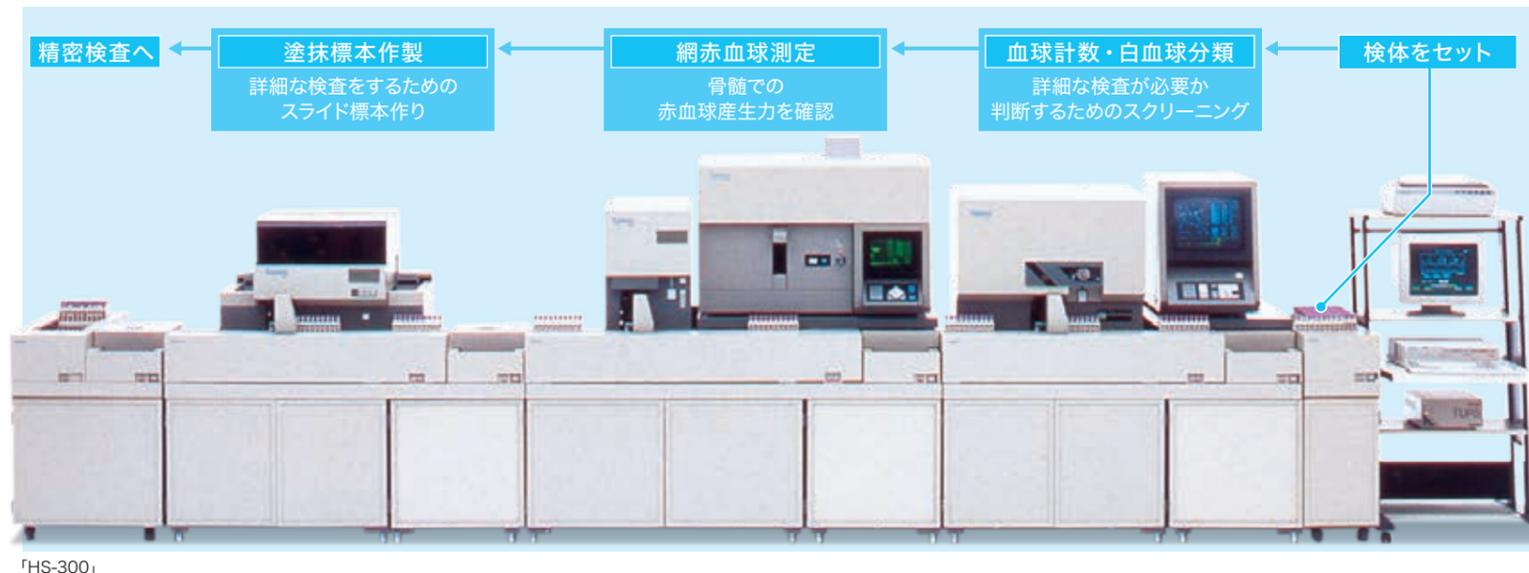
大学病院に、検査室の効率化を実現するシステムを導入。これが、当社の搬送システム製品の原点となりました。



システムを納入した高知医科大学(左)と浜松医科大学(右)

1990

「HSシリーズ」を発売。世界で初めて血球計数・白血球分類、網赤血球測定から塗抹標本作製までを完全自動化した画期的な製品。



「HS-300」

1992~

北米や欧州など、海外にも搬送システム製品を導入。国内外のお客様に評価され、1993年には累計50セット、2002年には累計1,000セット納入を達成しました。



欧州(左)と米国(右)へのシステム納入時の様子

本質的な課題解決に貢献する搬送システム製品の開発・販売

1968年の創立以降、東亜医用電子株式会社はさまざまな製品の開発・販売を進めていました。

1970年代に新設された医学部・医科大学(新設医大)では、限られた人員で検査室を運用していました。このような状況下で、当社は新設医大である高知医科大学(1980年)、浜松医科大学(1987年)より「検査機器とコンピューターをベルトコンベアで組み合わせ、検査室の省人化とスピードアップを図りたい」という依頼を受けます。多くの技術的な課題はあったものの、お客様のご要望にお応えしたい一心で開発に取り組み、難行苦行のすえに納入に成功。この経験が、後に当社の競争優位を実現した搬送システム製品誕生の原点となりました。

そして、検査需要の高まりに伴い、多くの医療機関が医療費の抑制に向けて「検査の効率化」を課題視していた1980年代後半。当時、常務を務めていた家次恒(現・代表取締役会長兼社長 CEO)は、「製品単体ではなく、システム化を提案することで、お客様が抱えている本質的な課題の解決につながるのではないか」と考えます。そこで、1990年に全社横断的な組織として「システム企画室」を設置し、他社に先駆けて臨床検査搬送システムの事業化に着手。同年に世界初の血球計数・白血球分類、網赤血球測定から塗抹標本作製までを完全自動化したヘマトロジー分野*の搬送システム製品「HSシリーズ」を発売しました。自動化による人の手を極力使わない検査の実現は、検査室運営の効率化に加え、検体を取り扱う際の感染リスクの軽減や検体の取り違い防止にも貢献することができ、お客様の本質的な課題解決につながりました。

*ヘマトロジー分野:血液中の赤血球や白血球などの数や種類、大きさを分析することにより、精密な検査が必要かどうかを判断するための検体検査分野。

シスメックスの強み

世界中のお客様に安心をお届けするサービス&サポート

シスメックスは、時代を先取りし、お客様に新たな価値をお届けすることが重要だと考えています。IT革命が進んだ1999年には、お客様のもとにある検査機器と当社のサービス&サポート拠点をネットワークでつなぐ新たなサービス「SNCS™(シスメックス ネットワーク コミュニケーション システムズ)」の提供を開始。リアルタイムでお客様の検査機器の精度管理や稼働状態の自動監視を行うことで、検査の質の保証や故障予測による機器のダウンタイムの低減などに貢献し、世界中のお客様に安心をお届けしています。



逆境を乗り越え、お客様の期待を超える価値提供を実現

しかし、システム事業の滑り出しは決して順調ではありませんでした。「HSシリーズ」は、単体製品と、検体をベルトコンベアで運ぶ搬送部、情報処理装置などを柔軟に組み合わせることで、お客様の検体数やスペースをはじめとする状況・環境に応じたシステムを構築します。単体製品を販売していた従来とは異なり、ヘマトロジー検査全体の運営に対して提案を行う、というまったく新しいスタイルであったため、なかなかお客様の理解が得られませんでした。また、高額であることや、提案のための調査から予算化、納入までに時間がかかることもその要因の一つとなりました。

それでも粘り強くシステム製品の有用性の説明に努めた

結果、1992年頃から「HSシリーズ」の販売は軌道に乗ります。「HSシリーズ」の導入により、検査業務にかかる負荷やコストの低減、検査結果を報告するまでの時間の短縮、さらに安全性の向上につながるといった利点が認識されるようになると、売上は飛躍的に上昇。全国の大学病院などに次々と導入されました。

搬送システム製品は、現在も当社の事業を支える主力製品のひとつになっています。医療費の抑制という向かい風のなかでも当社が飛躍的に成長してきた要因は、**お客様の本質的な課題解決を通じて、お客様の期待を超える価値を提供し、競争優位性を確立してきたことにあります。**

▶ 次回は「海外市場への挑戦」についてご紹介します。

「バイオ診断薬*センター」の新設に着手

血液凝固検査分野、免疫検査分野、ライフサイエンス分野などの事業強化に向け、バイオ診断薬の研究開発、原料調達、生産から物流までを一貫して行う「バイオ診断薬センター」を新設します。本センターの新設により、バイオ診断薬の製品競争力の向上および安定供給体制の強化を目指します。さらに、省エネルギーに貢献する高効率電気・空調設備の導入など、環境への配慮も進めています。

所在地：
兵庫県神戸市
稼働時期：
2019年4月予定



外観イメージ

*バイオ診断薬：タンパク質などに最新のバイオテクノロジーを駆使した診断薬。

「シスメックス・エコビジョン2025」を策定

シスメックスグループ長期経営目標の策定に合わせて、新たに「シスメックス・エコビジョン2025」を策定しました。持続可能な社会の実現に貢献するため、これまで以上に環境保全を推進し、グループ一丸となり、新たなビジョンの達成に向けた取り組みを確実に実行していきます。



CO₂排出量の削減 水消費量の削減 資源循環の推進 生物多様性の保全

リンパ節転移検査システムの新製品を発売

がんのリンパ節への転移を調べる検査は、術式の選択をはじめ、治療方針を決定する上で重要な役割を担っています。当社は2006年に、独自の技術であるOSNA™法*を用いてリンパ節転移検査を自動化・簡便化し、約30分で検査結果を提供することを可能にしました。これにより、病理医の負担を軽減するだけでなく、患者さんの負担の軽減やQOL（生活の質）の向上にも貢献しています。新製品は、高い検出精度を維持しつつ、測定時間の短縮や最大同時測定検体数の引き上げなど、市場のニーズに合わせて検体処理能力を向上させています。

*OSNA™法：当社が開発した直接遺伝子増幅法。



試薬「リンアンプ™ CK19」



遺伝子増幅検出装置「RD-200」

公式Instagramを開設しました！

シスメックス所属の三原舞依選手・坂本花織選手の活動報告や試合、練習の様子などを発信しています。ぜひご覧ください。



三原舞依選手(左)
坂本花織選手(右)

ユーザー名：systemx_figureskatingteam
アカウント名：シスメックスフィギュアスケートチーム
(三原舞依・坂本花織)

www.instagram.com/systemx_figureskatingteam/

会社概要

(2018年6月30日現在)

■商号 シスメックス株式会社
SYSMEX CORPORATION
■設立年月日 1968年2月20日
■資本金 124億1,434万円

■格付け A+ (R&I: 格付投資情報センター)
■従業員数 8,477名(連結) 2,585名(単独)
*嘱託・パートタイマーなどを含む
■主な事業内容 臨床検査機器、検査用試薬ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入

株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会 6月
■基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。

■公告方法

当会社の公告方法は、電子公告とします。
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告掲載ホームページアドレス www.systemx.co.jp/ir/

■上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
■証券コード 6869
■単元株式数 100株
■株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
■同連絡先 (郵便物送付先・電話照会先)
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)

お知らせ

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取り扱いいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。